ＴＳＫ

わい!わい!ふくし☆

編集：ＣＩＬもりおか
〒020-0863
盛岡市南仙北2丁目27-1　鈴木ビル1階2号室
電話／fax：019-636-0134
e-mail：cil_morioka@ybb.ne.jp
HP　：http://sachiko.hp.infoseek.co.jp/

Wai! Wai!

わい! わい!

Fukushi★

ふくし

第９号

臨時特集号

交通バリアフリー推進イベント「バスは僕らにとってもスニーカー」
企画の経緯…２
「スロープ付低床バス意識調査アンケート集計の報告書」・・・３
バス乗車体験＆今福義明氏講演会…９　今福義明氏の運動…１０
「バスに対する公共交通機関のバリアフリー推進を求める要望書」の提出…１２
１０月のイベント終了後・・・１２
活動記録　…１９　編集後記　・・・１９

交通バリアフリー推進行事
「バスはぼくらにとっても！ スニーカー」開催！！

企画の経緯

最初は、バスを利用していたひとりの障害者の声から、この活動は始まりました。ひとりの声がまたひとりの声となり､７月２５日に第１回の運営委員会を開催してから３ヶ月の活動が実を結び、この要望書が出来上がりました。一番身近なバスが、高齢者や障害者にとって、使いやすい環境になり、改善されますことを願います。

（川畑）

「バスはぼくらにとっても！　スニーカー」行事運営発起人であり責任者の今川幸子です。６月頃から、低床バス意識調査のアンケートを岩手県内外で行いつつ、バスに対しての交通バリアフリー推進行事を行うことにしました。

行事を行うにあたり、７月２５日（日）に第１回の運営委員会を行いました。当団体だけの活動という形ではなく、地域の障害者当事者と話合うことが必要と思い、運営委員会では、出席者の視覚障害の方、聴覚障害の方から多くの意見が出され、いろいろと参考になりました。

１０月２３日（土）に「バスはぼくらにとっても！　スニーカー」のイベントを開催しました。午前の部では、実際に盛岡市内で運行されている時刻のスロープ付低床バスに乗降体験を行い、午後の部では、名古屋から DPI 常任委員交通問題担当の今福義明氏を講師としてお招きし、交通バリアフリー法について講演会を行いました。その後、１１月１５日（月）に、岩手県バス協会、岩手県交通㈱、岩手県北自動車㈱、JR バス東北㈱岩手支店、盛岡市交通対策課と話合いを行いました。

「スロープ付低床バス意識調査アンケート集計の報告書」

アンケート調査の実施場所

第１回目　７月　締め切り

・インターネット、CIL もりおか事務所来訪者、当団体の広報誌発送先から収集にご協力して頂きました。

・また、各施設にアンケート BOX を設置致しました。

協力施設

ふれあいランド岩手、盛岡市総合福祉センター、もりおか自立支援プラザ、My 夢(障害児（者）地域療育等支援事業、知的障害者生活支援事業、盛岡広域圏障害者就業支援事業)

第２回目　９月　締め切り

・盛岡医療福祉専門学校、CIL もりおか事務所来訪者

アンケート集計結果数

＜総合集計　合計３８１件＞

●岩手県　２８４件

●岩手県外７２件（北海道３件　青森１４件　秋田１４件　宮城３１件　東京　７件　静岡１件　愛知１件　福岡１件）

都道府県未記入　２５件

アンケート集計表

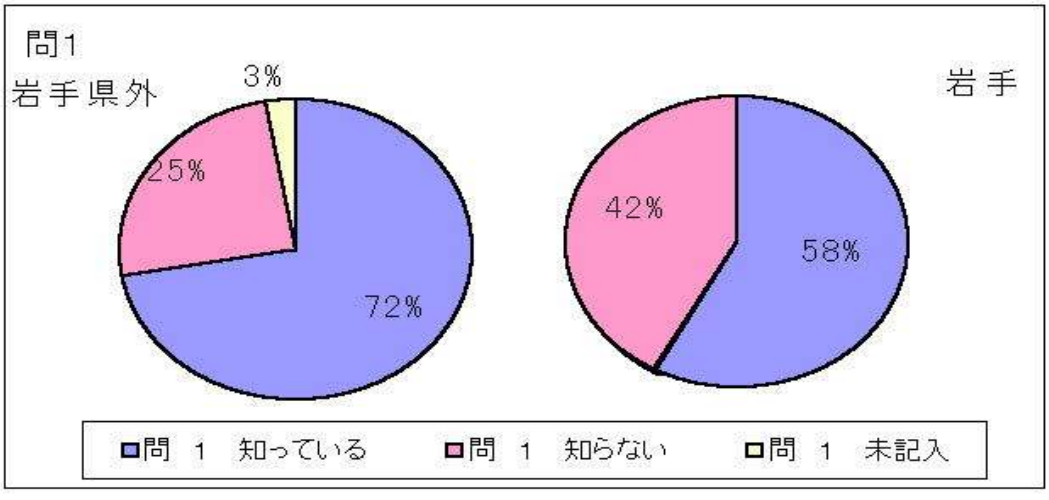
問　１　貴方は車椅子でも乗れるスロープ付の低床バスを知っていますか？

問　２　貴方が住んでいる地域で、そのようなバスで障害を持った人を見かけたことがありますか？

問　３　問２で、見かけたことがある方へ質問です。その時、バスの運転手さんの対応はどのような感じでしたか？

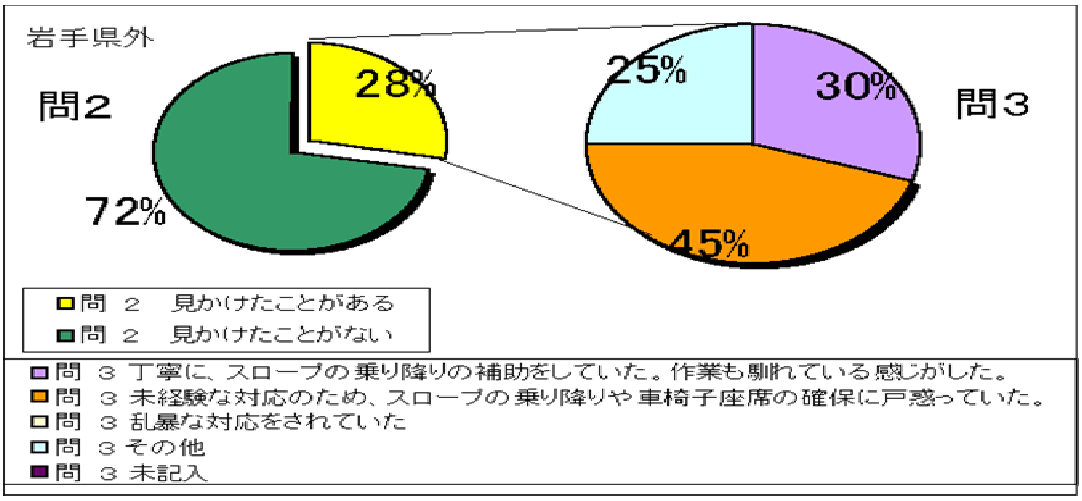
低床バスを		岩手県外	岩手
問　1	知っている	52	165
	知らない	18	119
	未記入	2	0
問　2	見かけたことがある	20	16
	見かけたことがない	52	268
問　3	丁寧に、スロープの乗り降りの補助をしていた。作業も馴れている感じがした。	6	7
	未経験な対応のため、スロープの乗り降りや車椅子座席の確保に戸惑っていた。	9	6
	乱暴な対応をされていた	0	0
	その他	5	1
	未記入	0	2

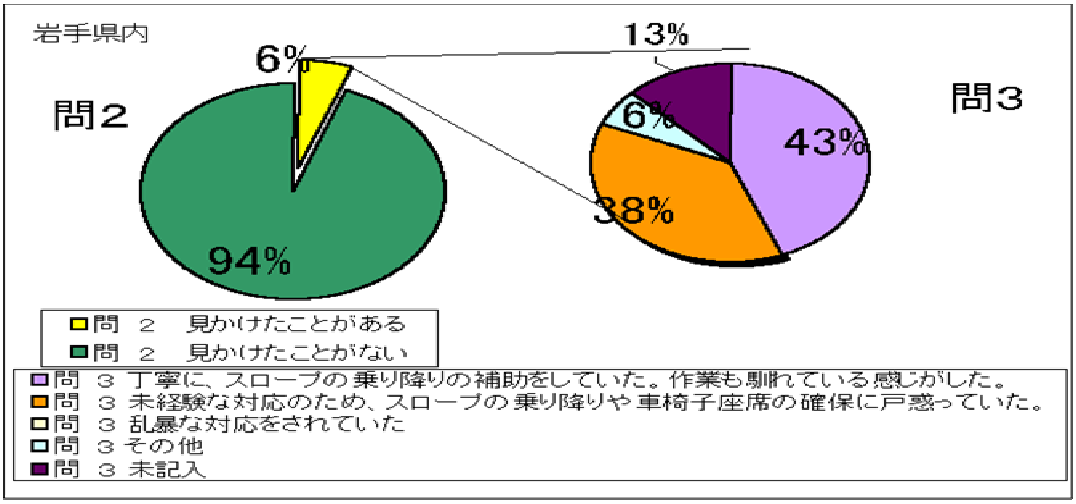
問１～３の結果グラフ



グラフの結果から

問１に関しては、岩手県外のアンケート数が少ないため、わかりにくくはありますが、岩手県外、県内のアンケートに協力頂いた方々のほぼ過半数が、低床バスを知っていると答えて下さいました。





グラフの結果から

問2は、岩手県外、県内ともに、実際に障害者の乗客を見かけたことがあるかどうかという問ですが、「見かけたことがある」と答えた方は少数でした。

東京のような大都市の場合は、一社で低床バスが100台以上導入されているのに対し、地方では100台未満の導入数であるため、一路線での低床バスの運行が限られております。利用したいときに利用できない＝「不便」なため、障害者の乗客を見かけたことがないと答える方が多かったと思われます。毎年、岩手県内の各バス会社で、低床バスの導入が続けられており、台数が増えて将来的にはニーズが満たせるようなるかと思われます。

また、本年度、岩手県交通で5月の時刻改正の際に、県民への周知としてインターネット、冊子にマークが付くようになり（なお、岩手県北バスは、県内初低床バスが導

入された年に、マークを付けていました。）、情報提供の効果につながっていると思われます。そのため、次回アンケートが行われる場合は数の変動もありうると想定されます。

問３は、問２の「障害者の乗客を見かけたことがある」という方に対する問で、これによると、丁寧に、補助をして下さり、慣れている方もいれば、スロープの乗り降りの確保に戸惑っている場面を見かけたと答える方も多くあり、乗務員によって対応が違うということもあるのではと思われました。

※　問４、問５の回答文については、アンケート結果から抜粋して掲載します。
なお、原文をそのままです。

問 ４ 障害を持っている人たちが、どんどんバスを利用することによって、街がどう変わっていくと思いますか？

＜バリアフリー化されるという回答＞

・ バスやバス停がよりバリアフリー化されていきます。

・ 街の歩道に並んでいる自転車や車椅子走行中に障害となるものが減り、車椅子の方だけでなく、一般の人にとっても歩きやすい良い環境作りになると思う。

＜意識の変化についての回答＞

・ 社会進出が増え、周りの人も障害者への意識が高まり高齢者の活動の場も増えていくのではないかと思う。

・ 障害を持っていない人も、実際に障害者が困っている場面を間のあたりにすることによって、バリアフリーやモラルの意識が高まると思う。

＜暮らしやすい街・街が変わるとの回答＞

・ 街の活性化にもつながると思うし、住民の福祉理解が高まると思う。

・ 施設利用が増えれば、街中もムダな段差がなくなり、バリアフリーが進み使いやすい街になっていくと思う（ニーズの対応）。

＜普通のことだと思う。あたり前になるとの回答＞

・ バスに乗るという普通の事を障害者だからといって問題にする方がおかしいと思う。バスに乗ることを普通に思ってどんどん利用するようにすれば良いと思います。

・“街が変わる”“街を変える”　以前に、車椅子のままバスに乗る事が普通と思えるよう意識改革が必要な事だと思う。

＜行動範囲が広がる・積極的になるとの回答＞

・ 出かける機会が増える。色んなところに自分で出かけられる。色んな人がいる社会になれる。他の人も色んな人への接し方ができるようになる。

・ 行動範囲が広がります。地域を走るバスが低床になる事で、高齢者やベビーカーの乗客も利用しやすい、人にやさしいバスになる。バスや電車が利用しやすくなると、街も活性すると思います。バスや電車交通は街の血管ですからね。

＜その他＞

・ 移動方法が選べる事は良いと思う。バスは料金が安いので利用したいと思う人は多いと思う。

・ 利用者も増えてくると思うし、介護者も楽に介助できるので良いと思う。

問 5 低床バスについて感想・意見

＜宣伝・アピールの強調＞

・ もっと宣伝すべきだと思う。

・ バスが増えても、それを利用する人達がかわならければ。

・ 知っていても目に触れる事は無いので、PR した方が良い。

＜車輌・運行本数が増えて欲しい＞

・ 高い段差は、若い人や子どもにとっても、きついと思うので、そういうバスが増えることはとても良いと思う。

・ 高齢化が進んでいることもあり、全ての人にやさしい街をつくる一つの手段として増えれば良いと思う。

・ もっと増えてほしい（乗り合った人が、運転手さんのお手伝いできるくらい、毎日見ることができればいいです）。子連れの時はラクだし。

＜車輌以外の改善＞

・ バス本体の数を増やすだけでなく、バス停の整備が不可欠。バスが車椅子での乗降ができたとしても、バス停に車椅子で行けない場所にある、もしくは全く整備されていない。そんな、バス停が圧倒的ではないのか。環境整備にもっと力をそそいで欲しいと思う。

・ 低床バスが通っていても、何時に通っているのかがわからなければ、利用する側からは「便利さ」を感じる事はできません。あまり待たせずに乗れる位の本数になるか、時刻表にどの時間に低床バスが走っているか、明記していただけるとありがたいです。

・ 運転手さんが不慣れで、普段利用している人の少なさを感じた。あたり前の様に利用で

きなくては（予約なしで）。

＜安心・安全の面＞

・ 私自身はバス停まで車椅子を押してもらって、あとは杖という感じです。つい、４，５年前までは、たとえ杖をついていようが何しようが「さっさと乗ってさっさと座りやがれ」みたいな態度で、私が座る前に発進してしまうバスが多かったのですが、最近は事故で騒がれたせいか「ゆっくり乗ってください」と声を掛けてくれる運転手が多くなった。低床バスは、私のように杖をつく人にとってありがたいです。

・ 低床バス自体に反対する理由も無いし、かえって健常者のボクが階段で（特に雨の日）転ばずにバスに乗れたりするのでもっと普及させてもいいと思う。

・ 障害者のみならずバリアフリー化が進み高齢者や子ども、妊婦さんにとっても安全で良いと思う。

＜ノンステップバスも視野に・・・＞

・ 2005 年には、交通バリアフリー法の見直しが予定されています。新規導入・更新するバスは、すべてノンステップバスにするように求めなければなりません。ワンステップ・スロープ付バスでは、バス停が地面の時など、スロープ勾配角度が急角度過ぎて、大変危険だからです。メーカーに生産するバスをすべてノンステップバスにするように求める必要があります。低床バス=ノンステップバスになるようにしていきたいですね。

・ 歩道との高さをうめる必要があると思うので、歩道のバス停整備と合わせて、実施すべきである。リフトバスの廃止を強くして、ノンステップに一本化した方がよい。

＜経済的に良い・行動範囲が広がる＞

・ 障害者だけではなく高齢者の方も利用できるのでいいのでは。天候によりタクシー、バスと使いわければ経済的にもなると思う。

・ 障害を持っている人たちの行動範囲が広がるので、もっと普及してほしい。

＜その他＞

・ 以前のリフト付のバスから現在は低床スロープ付に変わり、もっとも使いやすいスタイルとなっているが、実際に利用したことがないので分からない。ただ、ハワイなど外国ではリフトを自分で操作するバスがあるとのことで、運転手の介助がなくても利用出来るようになればいい。

・ 以前住んでいた静岡県浜松市のバス会社では、CIL 浜松と協力して運転手向けに社内教育を計画しました。そのような形で啓発してくいことも CIL の出来ることだと思います。バスの時刻表の FAX サービスや時刻表に低床バスの運行時間が記載されていて、バス会社

の対応も少しずつ変わっていきました。それもバス会社に対して、CIL が働きをしたことが大きいと思います。今住んでいる東京都昭島市周辺でもこれから働きかけを始めたいと思います。

１０月２３日「バスはぼくらにとっても！　スニーカー」

午前の部　低床バス乗車体験

同じ路線で体験するのでは、アピールとしては弱いので、A～C 班に分けて別々の路線に乗って頂きました。

A 班　行き→でんでんむし（盛岡市内循　　環バス）　運行バス会社：岩手県交通㈱
　　帰り→でんでんむし　運行バス会社：岩手県交通㈱
B 班　行き→でんでんむし　運行バス会社：岩手県交通㈱
　　帰り→川目線　運行バス会社：岩手県北バス㈱
C 班　行き→盛岡南部都心循環線　運行バス会社：岩手県交通㈱
　　帰り→川久保線：岩手県交通㈱

＜感想＞

A 班八重樫　久美子

今回初めてスロープ付きバスに乗車体験をして感じたことは、スロープの傾斜のきつさで介助者の人がいてもやっとのことだったので、自分ひとりで自由に外出をする手段として利用するには、まだまだ改善の余値があり、現状では困難だと実感しました。

また、乗り降りに時間がかかるので、一般客に不快な目で見られた。でも、このような活動は、一般客には良いアピールになったと思います。

普段の移動手段はタクシーしかなく、交通費もかさんで大変というのが大きく思うように出歩けない日常なので、一日も早くバスが便利になるように願っています。

＜お願い＞

私たちの団体は、現在全国のジャスコで行われているイエローレシートに参加しています。毎月１１日の日は、レシートが黄色いから、イエローレシートと呼ばれ、この日のイエローレシートを参加団体 BOX に投函すると、レシートの合計金額の１割の金額の物が、参加団体へ寄贈されます。

イオン盛岡で１１日買い物をするさいは「自立生活支援センターもりおか」へ投函して頂きますよう、ご協力お願いします。

午後の部　講演「交通バリアフリー法とは」

講師 ： 今福義明氏

電動車椅子使用者であり、介護者を使って１人暮らししています。電車やバスなどの交通機関をアクセス調査し事業者や自治体・国との交渉を行っております。

（http://www.access-all-japan.jp/top.htm　に活動が載っています。）

1958　京都市生まれ

1987-92 京都障害者行動センター代表

1992-96 アクセス京都(関西の鉄道のバリアフリー情報提供ミニコミ誌代表

1996-2004　アクセス東京(鉄道・バス・すべての乗り物・新設建物等の　情報提供・改善要望グループ)　代表

1999-2004　 3 月

「誰もが使える交通機関を求める」全国行動東京実行委員会　代表

2003 年～現在

DPI 常任委員交通問題担当

2004 年４月～現在

名古屋市の「わだちコンピューターハウス」調査企画部所属

現在：今後の交通バリアフリー活動のため、東京に引越し

―最近の運動―

■■だれもが使える全国交通行動■■

社会へもっと出たい！近所の散歩だけなんてたえられん！もっと遠くへ行きたい。階段を自力で登れない者は誰かに「つれていってもらう」ことなしに始発から終電（バス）まで使いたい時に使うことはやっぱりまだわがままなのですか？

バリアフリー法制定から来年で 5 年目。改正の年を迎えます。法改正を見据えた動きもちらほら出てくる中、今年も交通行動全国行動が行われました。以下、今年東京での交通行動の報告です。

■誰もが使える交通機関を求める全国行動(東京)2004■

秋晴れの中、150 名が新宿でアピール活動

2004 年 11 月 7 日(日)、新宿西口の柏木公園に都内各地から障害者・支援者など 150 名ほどが集まり、デモや該当での PR 活動を行った。

参加者が持ち寄ったプラカードには、「ハンドル式電動車いすを電車に乗せろ」「すべてのバスをノンステップバスに」「タクシーもバリアフリーに」など、来年にも行われる交通バリアフリー法の施行状況の評価とその後の法改正作業をにらんだ内容が目立った。実際に、参加者の中にはハンドル式電動車いすを使用する人も目立った。

デモ行進前の集会で、DPI 日本会議交通担当役員の今福義明は、交通バリアフリー法ができ設備が整いだした後も、つくば市におけるリフト付きコミュニティーバスへの乗車拒否など、理不尽な利用拒否が後を絶たない中で、ぜひとも交通バリアフリー法改正で障害者の移動権を勝ち取らなくてはならないと力強く訴えた。

その後、新宿中央公園までのデモ行進と、新宿東口での PR 行動を行った。

総論賛成、でも各論は……

翌８日(月)、50 名近いメンバーが集まり、国土交通省との交渉を２時間余りにわたって行った。DPI 日本会議からは、三澤議長、今福交通担当役員たちが出席した。
DPI 日本会議と「誰もが使える交通機関を求める全国行動東京実行委員会」の連名で提出された要望書では、以下の５点を要望した。

・基本理念（移動権の確立、身体障害のみならずすべての移動制約者を対象とすることなど）

・基本構想（都道府県の関与、障害当事者等の委員比率の明確化など）

・移動円滑化基準
鉄道（既設駅へのエレベーター義務化、ホームドアの義務化など）
バス（ノンステップバスの義務化、バス停のバリアフリーなど）
航空機（単独搭乗を認めることなど）

・情報保障（音声誘導のルールの明確化、文字情報）

・財源確保

国土交通省からは、法律のカバーする対象者を拡大する件については、ユニバーサルデザインのような考え方を盛り込むことも検討になるのではないかという回答がなされた。また、基本構想への国や都道府県の関与についても一定検討する必要があるという認識が示された。

しかし、個別の課題になると一転してかたくなな態度になった。ホームドアの設置に

ついても車両形状が違うなどの技術的な課題があるということを理由に、新設駅であっても「望ましい」というレベルにとどまると述べた。また、コミュニティーバスを障害者・高齢者等が利用しやすい車両にすべきとの要望についても、「市町村の自主裁量である」と回答し、最も身近な移動手段として各地で普及しているコミュニティーバスをアクセシブルにすることの責任がないかのような回答がなされた。

また、農村部をカバーするバス会社の多くが、現行基準で許容されている床高 65 センチのワンステップスロープバスを購入することで、ノンステップバスが全国に普及していない問題についても、中小のバス事業者の財政状況などからもノンステップバスのみを義務にすることは難しいと回答があった。これに対しては、電動車いすユーザーの多くから、ワンステップスロープバスで転倒事故を起こした例が次々と述べられた。

最後に、要望書への回答も含めて、交渉中に出た要望事項についても文書で回答することを検討するよう、国土交通省と約束をして交渉は終了した。

2004.11.10
ＤＰＩ日本会議ホームページより転載

１０月のイベント終了後---

私たちはアンケートの集計結果と運営委員会の話し合いで出されたことを要望としてまとめて、岩手県バス協会、岩手県交通㈱、岩手県北バス㈱、JR バス東北㈱岩手支店、盛岡市交通対策課と１１月１５日に話し合いを行いました。

要望書としてまとめた内容は下記の通りです。

１．ノンステップバスの導入
２．歩道等の設備徹底
３．バスセンター・バスターミナルの設備改善
４．盛岡市バスロケーションシステムの表示改善
５．社員教育の指導徹底
６．乗降の安全
７．バス路線・低床バス導入
８．時刻表への情報提供
９．県民への情報提供

以上について、要望しました。

話し合いは、意見交換という形で行われ、私たちが出した要望書の内容から、今後どのような対応をするのか回答して頂きました。

★要望１について。ノンステップバスについては、盛岡の場合は雪の状態が北海道とは違うために、ノンステップバスを運行するには難しい。また、除雪に関してもまだまだ迅速に対応できないので、今後の導入については検討するとのことでした。

★要望２について。歩道の除雪体制については、今年度の盛岡市の予算では昨年度よりも除雪に予算を組んでいるという回答でした。また、歩道のバリアフリーについても、現在新しい道路についてはバリアフリーを考えて作っているが、古い道路については、徐々にバリアフリー化していきたいという話しでした。

★要望３について。バスセンターに関しては、管轄している会社を今回話し合いの席に呼んでいないために、この要望については岩手県バス協会側からバスセンター管轄会社へ話しをして頂けることになりました。

★要望４について。バスロケーションの電光掲示が一部の途中区間の停留所と終着停留所でしか表示されないので、すべての区間の停留所を表示してもらいたいという要望した。これに対して、電光掲示の文字に制限があるために、今のところ要望通りにはできないが、盛岡市では、どの路線に乗っているのかわかるようにするために、路線図に色をつけて対応したいとのことでした。

★要望５について。視覚障害者側から意見があった、乗務員が行う行き先アナウンスの徹底を要望しました。また、低床バスは事前連絡ではなく、当日に利用したい乗客への柔軟な対応ができるよう社員教育の徹底も要望しました。これに対して、接客は基本中の基本であるから、今後とも社員への教育をしていく。ただ、乗務員によって教育に熱心である方そうでない方がおりまちまちであることは確かで、教育する側としてもかなり苦労をしているとのことでした。

★要望６について。乗車の際、車椅子のバック転倒がないように要望しました。安全を徹底するとの回答でした。

★要望７について。病院周りもよいが、土日祝日は地域行事、買い物に行きたい人も多いので、ショッピング施設周りなどの路線や低床バスの導入があればいいという要望については、時刻改正時期に検討してみる。また、普通ダイヤの時間に移動をしたい場合は、連絡があれば車輌をスロープ付低床バスに交換して運行することもできるとのことでした。

★要望８について。最近では、冊子、ネットでの時刻表で車椅子対応のスロープ付低床バスの運行時間を知ることが出来て便利であるが、バス停の時刻表には印がないために、どのバスが乗れるバスなのか記載してもらいたい。回答としては、すぐにはできないので徐々にやっていきたい。また時刻改正の時期頃に検討してみたいということでした。

★要望９について。福祉、バリアフリーに対して学んでいることを県民へ知らせるために、研修の日程や内容を H.P.等で周知して欲しいという要望に対し、検討をしてみるという回答でした。

※　ホームページには、これより詳しい内容が載せてありますので、ご覧下さい。

ＣＩＬもりおか会員募集中

当団体の趣旨をご理解いただき支援していただける会員を募集しています。当団体の会報を送らせていただきます。

★正会員（購読料含）一口　　２，０００円

★賛助会員　　一口　　無制限

※　ＣＩＬもりおか事務局へ、お問い合わせ下さい。（担当：川畑、今川）

ＣＩＬの活動について

☆　ＣＩＬの歴史　☆

○　１９７０年代に、バークレーで重度の障害を持ったエド・ロバーツが、自分への支援活動を社会に出て組織として立ち上げたのが初まりです。その時設立されたのが、ＣＩＬ（Center of Indeperdent Living）です。後に世界にと広がりました。日本には１９８６年　東京の八王子にヒューマンケア協会がスタートしました。今では全国１３０ケ所を数えています。

☆　理念　☆

○　どんな重度の障害のある人でも、地域の中で生きる事（生活・社会参加）を支援します。同じ障害のある人がその支援をする所です。

○　障害を持った事で奪われた、一人の人間としての「自分でえらぶ」「自分で決める」「自分で責任をとる」ことを目標にしています。

☆　条件　☆

○　代表と事務局長が障害を持つ当事者です。

○　ＣＩＬでは障害当事者が「自分でえらぶ」「自分で決める」ことが出来るように尊重されています。そこには、もちろん「自分で責任をとる」がともないます。

○　同じ障害を持っていることに対する気持ちや個人の問題、社会の仕組みの問題点など、仲間（ピア）である障害者がその人に合ったサービスを提供します。

○　障害を持つ人なら誰でも受け入れ、協力し合います。

☆　有料介助派遣　☆

介助を必要としている方に有料で介助者を派遣します。日常生活や社会参加を応援します。一般介助／泊まり介助。ご相談に応じます。

☆　ピアカウンセリング　☆

「ピア」とは、同じ障害を持つ「仲間」と言う意味です。その障害を持つ仲間同士が、カウンセリングを通して、自分自身の障害を受け入れ、自分を取り戻し、強くなっていきます。そして自立生活へと向かうための相談活動です。精神的サポートカウンセリング。セミナー・集中・長期講座等の、グループ・カウンセリングも開催します。

☆　自立生活プログラム　☆

障害を持つ人が自立生活を行うために必要な技術を身につける為の、社会生活のトレーニングとプログラムです。自分で料理を作るためのプログラム、外出時のプログラム、買物のプログラム、行政サービスを受ける為のプログラム、介助者へのコミュニケーションのノウハウまで、ピア・カウンセラーがリーダーとなり行います。

☆　情報提供　☆

障害を持っていても一人の人間として「安心して」「自信を持って」「自由に」生きられる社会を作りだすための支援をしていきます。障害者が現在利用できるサービス、生活情報を提供します。

☆　その他　☆

広報活動、バリアフリー調査等を開催します

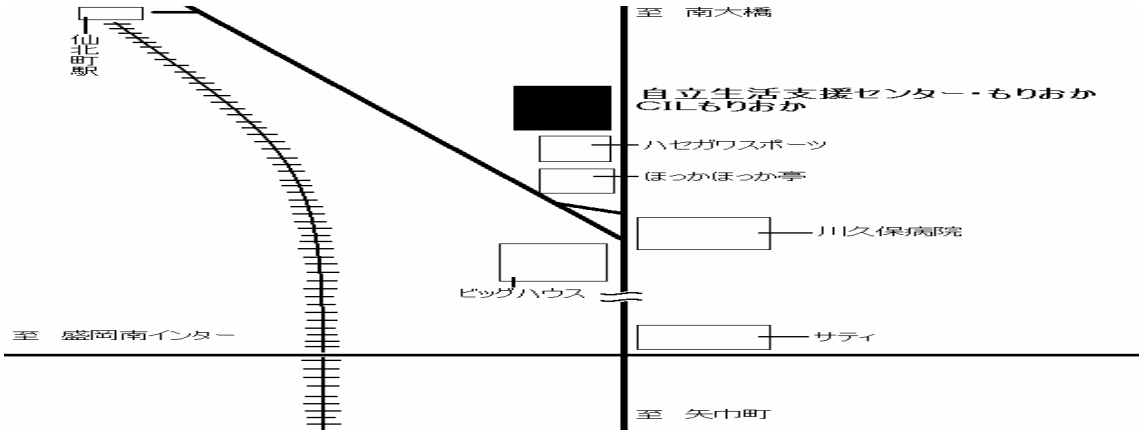
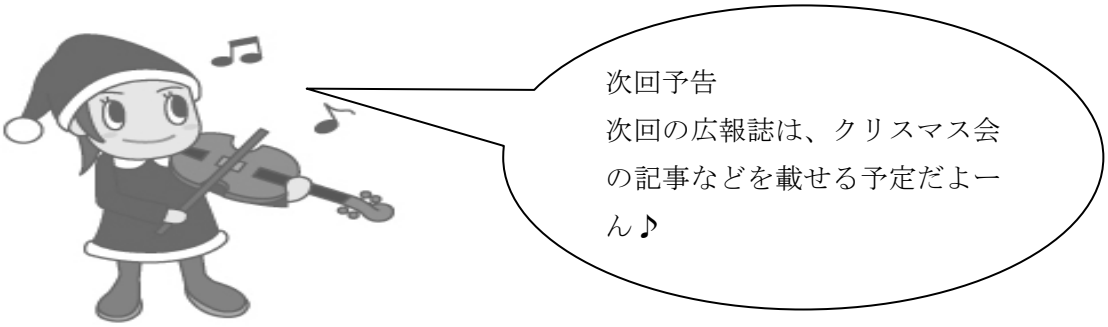
★☆★ＣＩＬもりおか★☆★
営業時間　午前１０：００～午後７：００（月～金）
相談・問い合わせ　２４時間お受けします。

＜介護保険・支援費制度については…＞
★☆★特定非営利活動法人　自立生活支援センター・もりおか★☆★
★☆★ヘルパーステーション・それいゆ★☆★
・支援費居宅介護事業所
・介護保険事業所
〒020-0863盛岡市南仙北2丁目27-1　鈴木ビル1階2号室
電話／fax：019-636-0134

編集後記

7月から11月にかけて行った交通バリアフリー推進行事「バスはぼくらにとっても！　スニーカー」の全記録を、一日も早く皆様にお届けしたいということで、臨時特集号を発行する運びとなりました。いかがでしたでしょうか？このバリアフリー推進に向けての取り組みは、来年以降も継続的に続けていきたいと考えております。アンケートにご協力いただいた全国の皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。（川畑、今川）

11－12活動記録

11.19　個別セッション
11.23　個別相談
11.26　個別相談
11.30　個別相談

12.01　個別セッション
12.09　My 夢職員来訪 1 名
12.11　ソロプチニスト協会岩手支部来訪 2 名
12.13　もりおか障害者自立支援プラザ所長来訪
　　岩手女子高等学校講演 2 名